



夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp



【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

もっと本格的な子どもの絵本を

◆「こどものとも」を横判にしました頃、1961年に『シナの五にんぎょうだいたい』と『100まんびきのねこ』とを一緒に出したんです



クレール・H・ビショップ文
クルト・ビーゼ絵/石井桃子訳
1961年/福音館書店刊

◆「こどものとも」は、そのいまといす◆
当時「家庭文庫」ってのが、だんだん広がるようになりまして。石井桃子先生の岩波新書の『こどもの図書館』という本が非常に売れて、各地で家庭文庫ができるんですが、その少し前に、東京にとっても有名な家庭文庫が3つありまして◆一つは、村岡花子先生がやってらっしゃった「道雄文庫ライブラリー」（大田区）って文庫があります。こ

「こどものとも」で育む豊かな心と生きる力
く本格的な絵本を翻訳する出版社がほしい



れは、村岡先生のご長男だった道雄さんが早く亡くなったもんですから、そのご長男の息子さんの記念に家庭文庫をお作りになって、子どもたちにご自分の蔵書を読んでもらったり、貸したりするという運動をなさったんです。まさに家庭文庫の草分けですね◆ちようどその頃、上北沢だったか

◆「家庭文庫」ってのが、荻窪（杉並区）の石井桃子先生のご家庭で始まったんですね◆そういうふうには、家庭文庫ってのが、少しずつ広がって行く中で、そういう方たちが「もっと本格的な子どもの本、特に

絵本がほしい」というような声が出まして「家庭文庫研究会」ってのが組織されたんです。私はそこへ、石井桃子先生も村岡花子先生もよく知っていましたから呼ばれて、時々一緒に話し合っていたんです◆その時「日本に岩波の子どもの本だけじゃなくて、本格的な外国の本の翻訳をちゃんとする出版社がほしいんです」とおっしゃったんで、「じゃあ、力

◆『100まんびきのねこ』がアメリカで出版されたのが1928年。ボヘミアの物語がルーツになってるんですが、アメリカの子どもたち

物語と絵が見事に一致

◆岩波書店から出ている本が『絵本の力』という本がありまして、河合隼男先生と柳田邦男先生と私と3人で北海道で講演会と対談を

絵で物語を語る



河合隼男/松居直/柳田邦男
柳田邦男
2001年/岩波書店刊

◆岩波書店から出ている本が『絵本の力』という本がありまして、河合隼男先生と柳田邦男先生と私と3人で北海道で講演会と対談を



ワンダ・ガアグ文・絵
石井桃子訳
1961年/福音館書店刊

余分に書いてくれたって言われたことがあったんです◆それは「あなたが『100まんびきのねこ』を出した理由がこの本の面白さっていうか、文章と絵との関係性を克明に書いてくれませんか」と、別刷りの付録に入れられたんです◆色がついてないんだけど、どれほど物語を絵が語っているか、絵本の絵っていうのは、どういうふうな物語を語るかということが分かっていただけるといいんじゃないかと思うんです◆絵本の絵っていろいろ見せる絵ではありませぬ。語る絵です。でも、最近の絵本は絵を見せるだけで、物語はちっとも伝わらないってことが多かったです。絵を見た途端に物語は忘れてしまうみたいなの。物語の印象が残らない◆日本の60年代、70年代の絵本というのが、非常に「絵で物語を語る」ってことを見事にやっています。文章もそうなんです。（つづく）